

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 1 年計画の 1 年目)

## 1. 研究課題

中国古代史像再構築のための基礎的研究

Fundamental Research Aimed at Reconstructing the Historical Image of Ancient China

## 2. 研究代表者氏名

土口 史記

TSUCHIGUCHI Fuminori

## 3. 研究期間

2019 年 04 月 - 2020 年 03 月 (1 年度目)

## 4. 研究目的

本研究は、王朝ごとに細分化された断代史的な中国古代史研究からの脱却を図り、より包括的な中国古代史像を構築するための基礎を打ち立てることを目的とする。近年の中国古代史研究においては、急速な史料増加に伴い、個別のテーマについては顕著な研究成果が上がっている一方で、研究対象が過度に細分化され、相互の対話・総合が一向に進んでいない点が深刻な問題となっている。本研究の参加予定者は、いずれも中国古代史を専攻する若手研究者としてこうした問題意識を共有しており、これまで複数回にわたって研究会を開催し、より包括的・総合的な中国古代史像構築の可能性を探ってきた。本研究ではその基礎に立ち、前 4 世紀から後 3 世紀の中国における①官制構造の理念的側面、および②行政運営の実態的側面を研究対象とする。巨大な官僚機構と精緻な律令制度を存立基盤とした中国古代王朝において、理念と実態との乖離・衝突がいかに関現出し、それがいかに関調整されあるいは破綻したのかは非常に興味深い課題であり、古代史研究だけに止まらない通時代的な研究課題ともなりうるためである。

The purpose of this project is to break away from the traditional study of ancient Chinese history, which is based on the dichotomy of Chinese dynasties, and to lay the foundations for a more comprehensive representation of ancient China. In recent years, the rapid increase in the amount of historical material available has led to remarkable progress in researching individual aspects of ancient Chinese history, but a serious problem has arisen in that different research subjects have

become excessively segmented, whereas mutual dialogue and integration have not progressed at all. Members of this project team are young researchers majoring in ancient Chinese history, and they have already held several workshops to explore the possibility of constructing a more comprehensive image of ancient Chinese history. Building on this foundation, the project focuses on the ideological aspects of the bureaucratic structure and the actual aspects of administrative management found in ancient China from the 4th century BC to the 3rd century. Since ancient Chinese dynasties established huge bureaucratic organizations and a sophisticated legal system, it is well worth investigating how divergence or conflict between ideals and reality occurred within these systems, and how they either adjusted to change or collapsed. This has relevance not only to ancient Chinese history but also to other ages.

#### 5. 本年度の研究実施状況

本年度は、まず9月に第1回研究会を開催した。9月27日に「秦代出土文字史料の研究」班と合同で里耶秦簡の会読を行ったうえで、翌28日に班長の土口が「秦代官府の空間構造」、杉村が「漢的秩序の形成過程」という題目で研究発表を行った。この発表には、土口班のメンバーの他、「秦代出土文字史料の研究」班の班員である若手研究者や外国人研究者も多数参加した。第2回研究会は2月15日に開催し、福永が「前漢前半期における劉邦集団と察挙」、渡邊が「後漢明帝の帝位継承と宗室輔政」という題目で研究報告を行った。これらの研究会にはメンバーの他、「秦代出土文字史料の研究」班の班員のほか、関西圏の若手研究者・大学院生も参加した。

#### 6. 研究成果の概要

最終報告書に記載

#### 7. 本年度の研究実施内容

2019-09-28 秦代官府の空間構造 発表者 土口 史記 岡山大学

漢的秩序の形成過程－戦国後期～秦末楚漢期の封建秩序と郡制統治－ 発表者 杉村 伸二 福岡教育大

2020-02-15 前漢前半期における劉邦集団と察挙 発表者 福永 善隆 鹿児島大学

後漢明帝の帝位継承と宗室輔政 発表者 渡邊 将智 就実大学

#### 8. 共同研究会に関連した公表実績

なし

## 9. 研究班員

所内

宮宅 潔、藤井 律之、目黒 杏子

学内

学外

土口 史記(岡山大学大学院)、杉村 伸二(福岡教育大学)、福永 善隆(鹿児島大学)、渡邊 將智(就実大学)

## 10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)
学内	1	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
国立大学	3	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	5	6 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	11	14 (1)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	20 (1)	3 (0)	1 (0)	4 (0)

※( )内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	2(1)
国際学術誌に掲載された論文数	0(0)

※( )内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由			
掲載雑誌	掲 載 論 文 数	主なもの	
		論文名	発表者名
『中国古代の法・政・俗』、汲古書院	1	後漢における郎官の再編	渡邊将智

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

13. 次年度の研究実施計画

なし

14. 次年度の経費

なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

既発表の論文に加えて、参加者の研究成果を今後も学術誌上に投稿していく予定である。  
さらに今回得られた初歩的な成果を土台として、科研費(基盤 B)の獲得を目指している。